笑顔かがやく光っ子　みんなで育てる光っ子

学校便り

第３２７号
平成２６年５月１日

練馬区立光が丘第八小学校
校　長　　鈴　木　隆　志

光 っ 子 た ち の 通 学 路

校　長　　鈴木　隆志

光が丘第八小学校の校章は、時計塔のカリヨンと、「八」、「小」の三つを組み合わせてデザインされたものです。「小」は、三本の線で、児童・保護者・教職員が協力する様子を表しています。「八」は、二本の線で、光っ子たちが仲良く歩いてくる様子を、光八小の「八」に重ねています。光が丘や田柄の町などから、光っ子たちが元気に登校してくる時、学校ではカリヨンの鐘の音（８時の「牧場の朝」）とおはようの挨拶が待っています。

先日、ドキュメンタリー映画『世界の果ての通学路』（パスカル・プリッソン監督）を観ました。学校に行くために、片道１５㎞のサバンナを２時間かけて命がけで駆け抜けるケニアの兄妹、１８㎞の道中、３６０度見渡す限り誰もいないパタゴニア平原を馬と一緒に通学するアルゼンチンの少年、アトラス山脈を越えて片道２２㎞を４時間かけて通うモロッコの３人の少女、幼い弟たちに車いすを押され１時間１５分かけて通うインドの少年、過酷な道のりをものともせずに学舎を目指す子供らの記録映画です。この子たちの学びへの意欲、ひたむきさは感動的です。何のために学校に通うのか、その答えがここにありました。この子たちは同じ思いを語っていました。「夢を叶えたいから」と。教育とは未来を切り拓くためのパスポートなのです。また、自分の命は自分自身で守るんだという、この子たちの成熟した姿を観ることができました。これは光っ子たちにも学ばせたいところです。

親たちは、朝、子供たちを学校に送り出すとき、「行ってらっしゃい」と子供の背に手を振ります。手を振る仕草は、もともとは魂振り（たまふり）の動作であって、神霊を招き寄せ安全を祈るという願いが込められています。交通事故に会わないように、けがをしないように、学校でしっかりと勉強するように、友達と仲良く過ごすようにと、願いをかけて子供の背に手を振ります。

もっとも、祈りや願いだけでは安全は担保できません。暴走する自動車が突っ込んでくることだってあります。子供の交通事故は５月以降に多発するという報告もありました。凶器を持った不審者と遭遇することだって考えられます。重い木の枝が突然落ちてくることだってあり得ます。大地震等の自然災害もいつ起こるか分かりません。様々な不測の事態にも最善の対応ができるように、私たちも努力を続けます。保護者の皆様、地域の皆様にも、引き続き御協力をお願いいたします。東京都は、安全のために通学路に防犯カメラを設置することを決めましたが、防犯カメラのレンズの眼よりも、善良な大人たちの眼の方が、事故や犯罪を未然に防ぐことができるはずだからです。

光っ子たちの通学路。通学路を歩きながら、光っ子たちはどんなことを考えているのでしょうか。私は、光っ子たちに、「何となく」で学校に来てほしくないと思っています。朝が来たから何となく、義務教育だから仕方なく、何も考えずにパターン化された毎日を過ごしていても、夢は叶いません。今日は学校で○○なことをしたいと、「思い」や「志」をもって学校に来てほしいと願っています。一日一日を有意義に過ごしてほしいのです。光っ子たちにとって、早く行きたくなる学校、明日も来たくなる学校であり続けたい、保護者の皆様にとっては、安心して通わせることができる学校、通わせてよかった学校であり続けたいと強く心に誓っています。